

## 令和7年度 第4回四條畷市立図書館協議会会議録

1 日時 令和7年10月28日（火曜日） 午後1時30分から3時01分

2 場所 市民総合センター2階 図書館集会室

3 出席

(1) 図書館協議会委員

○出席委員

金城 優子委員 小林 初根委員 川地 秀治委員 福井 多恵子委員

藤井 啓子委員

○欠席委員

大庭 つばら委員 尾崎 安啓委員 高垣 聡美委員 林 美香委員

広谷 光輝委員

※「四條畷市立図書館協議会運営規則 第6条」により、出席者が定数の過半数に達しているため協議会は成立

(2) 四條畷市教育委員会事務局

西尾社会教育部長 田中図書館長 福井田原図書館分館長

中崎四條畷図書館職員

4 議題 次のとおり

(1) 令和8年度予算編成について

(2) その他について

5 本日の議事次第記録者 次のとおり

中崎四條畷図書館職員

6 開会

田中館長

定刻になりましたので、ただいまより、令和7年度第4回四條畷市立図書館協議会を開催したいと思います。本日は、お忙しい中、ご出席いただき有難うございます。

開始前に、事務局出席職員の紹介と本日使用します資料の確認をさせていただきます。

(以下、職員紹介)

続いて、本日使用いたします資料の確認をお願いいたします。

事前にお配りした資料で、令和7年度当初予算及び主な施策。

次に、本日、机上配布させていただいております資料ですが、

- ① 令和8年度予算編成方針（要旨）と図書館の方向性
- ② A3用紙4枚つづりを二つ折りにした設計図のようなもの

以上でございますが、皆さま、全ておそろいでしょうか。よろしければ、以上の資料に沿って議題を進めさせていただきます。

それでは、この後の議事の進行は、会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

福井会長

こんにちは。本日は出席人数が少ないですが、成立状況はいかがですか。

田中館長

高垣副会長ほかから所用のため欠席との連絡をいただいておりますが、現在5名の出席となっておりますが、委員定数の半数の出席をいただいておりますので、四條畷市図書館協議会運営規則第6条の規定により、本日の協議会は成立しますことをご報告いたします。

福井会長

はい、有難うございます。今年度は市民総合センター建て替えの関係で協議会の開催回数が例年2回のところ多くなっておりますが、よろしくお願いいたします。

続きまして、四條畷市立図書館協議会会議の傍聴及び会議録要領の第9条の規定により、会議録を作成する必要がありますので、同条第2項に基づき、会議録に署名いただく委員を指名いたします。本日の会議録署名者は、藤井委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

藤井委員

はい。

## 7 議事の要旨

福井会長

それでは、議題に入ります。議題1 令和8年度予算編成について、事務局から説明をお願いします。

田中館長

例年、10月は次の年度の予算編成が開始される時期でございます。今年度も、10月16日付けで市長より予算編成方針が出されました。この方針を踏まえ、11月4日期日で、各課が予算編成作業を行うこととなります。

この作業にあたっては、まず来年度に取り組むべき事業の整理を行うこととなりますが、この整理にあたり、委員方々のご意見をいただきたく思います。

ご意見をいただく前に、この後、予算編成方針と図書館の予定、また参考として今年度の当初予算を説明させていただきます。前回に報告いたしました令和6年度の事業報告と合わせて、ご意見をお考えいただく際の参考にしていただければと思います。では、説明いたします

本日机上配布の資料「令和8年度予算編成方針（要旨）と図書館の方向性」をご覧ください。この度は、現市長となって初めての予算編成でございます。基本的に前市長の考え方を引き継ぎながらも、新たな課題を踏まえ、将来を見据えた長期的視点での方針となっております。コスト意識と協働が協調されている方針となっているかと思えます。

この編成方針を受け、図書館の方向性ですが、まず、「乳幼児サービスの徹底」を継続してまいりたいと考えております。

現在、乳幼児サービスにおいては、託児サービスとイベントを組み合わせた行事を実施し、保護者の方の利便性向上に努めており、「小さい子を預かってもらえると、ゆっくり本を選べる」「自身の読書の時間がとれる」「小さい子を連れて安心して楽しい時間を過ごせる場所が近所がないので助かる」など、好評をいただいているところです。

また、アンケート調査においても満足度が高く、リピーター率も高い状況で、何度か参加するうち、横のつながりも出てくるなど、想定以上の効果がみられております。このような、図書館利用や読み聞かせの促進だけでなく、子育てサポートにも資する取り組みには、民間の保育士さんとの協働も取り入れながら、一層注力してまいりたく、予算確保に努めたいと考えております。

次に、学校図書館支援の継続でございます。当協議会において皆さんの意見をいただきながら策定しました第4次子ども読書活動推進計画において、重点施策としました学校図書館支援ですが、この事業は、編成方針に謳われている「本市の規模だからこそ発揮できる機動力」の最たるものではないかと考えております。引き続き全小中学校をカバーできるよう予算確保に特に努めたいと考えます。

その他、大人向け行事開催の工夫、また施設再編関係の予算です。施設再編関係については、まだ来年度の具体的な段取りが定まっておりますが、この協議会で引き続き

ご意見をいただくことが想定されますので、臨時開催分の予算を要求する予定でございます。以上、令和8年度予算編成についての説明です。

続きまして、参考に、今年度の当初予算の内容について簡単にではありますがご紹介いたします。資料1 令和7年度当初予算と主な施策をご覧ください。

まず、1の利用者サービス事務。主な事業は、開館業務や行事開催であり、予算としては、土日曜日や祝日開館に対応する非正規職員の会計年度任用職員の雇用のための給与報酬や、行事開催に際しての講師への謝礼が主なものとなります。7年度は、行事謝礼が減少していますが、令和6年度が第4次子ども読書活動推進計画の取組みのスタート年であることから記念行事開催のため、臨時予算がプラスでついていたことによるものでして、7年度の予算が通常年の予算でございます。

続いて、2の図書館資料関係事務。主な事業は、資料の購入・保存、管理であり、予算としては図書・雑誌等の購入や、購入資料のデータ作成のための経費などが主なものとなります。令和6年度からは、特に予算の変化はありません。

続いて、3の図書館協議会関係事務。主な事業は、本図書館協議会の開催であり、予算は委員方々の出席報酬でございます。令和7年度に増加しているのは、総合センター建て替えのための意見聴取のための臨時開催分でございます。令和6年度予算が通常年の予算額になります。

続いて、4の障がい者サービス関係事務。主な事業は、通常の活字資料では読書が困難な方のための資料購入や作成であり、予算としてはサービスをバックアップいただいているボランティア団体への謝礼や資料購入費が主なものとなります。会費は、視覚障がい者サービス関連の団体へ加入しているものでして、音声資料を図書館間で貸し借りするのをバックアップしていただいたり、研修などを開催してくださる団体です。

続いて、5のブックスタート関係事務。主な事業は、毎月4カ月健診にて赤ちゃんに絵本をプレゼントするものであり、予算としてはプレゼント用の本の購入が主なものとなります。同年に生まれた子供全員が対象となる取組みなので非常に貴重な事業であり、絵本のプレゼントのほか、読み聞かせの魅力の発信などをおこなっております。

続いて、6の図書館管理運営事務。主な事業は、図書館サービスを円滑に遂行するため維持管理に関するものであり、予算としてはOA機器やコンピュータの維持管理等に関する経費が主なものとなります。令和6年度は、コンピュータの入れ替えがあったため、大きく増額となり、7年度は通信料など、関連予算が変動しておりますが、令和7年度が通常年の予算とさせていただければと思います。

続いて、7の田原図書館管理運営事務。主な事業は、田原分館の開館業務にかかるも

のであり、予算としては非正規職員の給与や行事の開催、資料購入費などが主なものとなります。令和7年度においては、ふるさと納税を活用した書架の購入を予定しており、その分増額となっていますが、臨時予算を除いては通常年とほぼ変わらない予算額でございます。

続いて、8の読書活動推進事務。主な事業は、児童生徒対象にした読書関連行事の開催であり、行事開催に必要な物品の購入費用を計上しています。

最後に、9の学校図書館支援事務。主な事業は、学校図書館へ職員を派遣して活性化にあたるものであり、予算としては派遣する非正規職員の給与報酬や館内整備のための消耗品費が主な予算となります。小中学校全校を支援できる予算が計上されております。

以上が予算の現状ですが、前年度との比較でいえば、大きな変動としては、令和6年度のコンピュータシステムの入替え経費の臨時予算分の減少、また全体としては非正規職員である会計年度任用職員の給与がアップしましたので、関連事業が増額になっておりますが、その部分を除けば平常年の予算額と考えていただいて差支えなく、非常に余裕がある、あるいは非常に厳しいという予算項目はない状況でございますので、フラットな視点でご意見いただけるものと考えております。

以上、議題1の説明です。これらを参考にいただき、予算編成に向けてのご意見を頂戴したく思います。図書館の考え方への意見、他に強化すべきことなど、何でも結構でございます。

よろしく願いいたします。

福井会長

ただ今、事務局から、説明をいただきました。何か質問などありますか。

では私から、ブックスタートは費用を抑えられたということですが、今後もこれぐらいの予算でということになるのでしょうか。

田中館長

ブックスタートの予算要求に当たっては、ブックスタートの本を販売している団体から購入しています。基本的に本は定価販売が原則なのですが、少し安価での販売が認められている団体になります。その団体が扱っている本のリストがございまして、そのリストから贈呈したい本を選んで、その価格で要求額を算出しています。その後は、予算担当課の査定次第ということになります。

福井会長

では、こちらで検討した結果、これぐらいの経費がかかるということで予算要求され

るということですね。最初からこの予算で決められたなかでやっておられるというわけではないということですね。

小林委員

どういう基準で絵本を選択されていますか。

田中館長

基本的には、毎年違うものということを基本に、内容的にお母さんに読んでほしい、おすすめしたいものをピックアップしていき、特に担当者が心に引っかけたものを選んでいっていると思います。

小林委員

何年前にブックスタートの本をみせてもらったことがあり、題名はわすれましたが、犬のお父さんとお母さん、にわとりのお父さんとお母さん、最後に人間のお父さんとお母さんということで終わる本でして、その時は特に何も思わなかったんですが、考えてみたら今の時代シングルマザーも多いので、渡される本が両親そろった本ということになれば、私一人しかいないという方がどのように読み聞かせていくのかなと思いました。また、子どもが自分で絵本を見るようになった時に、自分のパパはということになりますし、両親がいるということがノーマルだという内容のものは避けた方が良いのではないかと思います。おそらくその絵本は、長年読まれている固定の絵本になっているのだらうと思のですが、時代とともにそういう面も考慮にいれないといけないのかなと思います。

川地委員

同感です。両親そろっている本は、両親そろっている家庭が購入すればよいと思いますし、公費でお渡しする場合は、いろいろな家庭背景があることも考慮して配布するのが良いと思います。

藤井委員

そのような意見も昨今は夫婦別姓などいろいろな問題があるのでわかりますが、ブックスタートなのであまりこだわらないで、希望としては子どもが最初に出会う絵本は、かわいくて、優しくて、愛らしい動物とか同じ赤ちゃんが出てくるなどを基準に選んでいただいたら、4か月児であれば、あまりそのあたりは意識しなくても大丈夫そうに思います。私も孫に絵本を贈るんですが、基本はとにかくかわいいもの。絵本なので、絵が毒々しくないもの。最近は個性的すぎるものもありますが、かわいらしくて愛らしい

ものを見せたいと思います。選ぶ基準の一つとして。

田中館長

いま藤井委員が仰っていただいたようなことも選書の時は参考にしているかと思いません。また、先にいただいた今の時代になじまない内容というところも、今後は参考に選んでいきたいと思っています。

小林委員

行事ですが、田原図書館と本館は、それぞれ独立しておこなっているんですか。

田中館長

はい、基本は独立して、それぞれで企画しています。

小林委員

6年度だったと思いますが、田原の方で絵本講座、落語会など大人向けの行事があったと思います。一方、本館は、乳幼児と保護者が一緒に参加するような行事が中心になっているかと思っています。本館にも大人向けにも楽しめるような行事があればと思います。

田中館長

本館の方でも、例えば6年度ですとギターデュオを行いました。ギターと紙芝居を組み合わせたものを実施しまして、懐かしの昭和ソングや四條畷にちなんだ内容の紙芝居を楽しんでいただきました。たくさんご参加いただけただけではないですが、その際に実施したアンケートでは好評な結果となっており、満足いただけるものになったと思います。その前の年度では、ブックカバーを作るイベントを行いました。こちらもたくさんの方の人数ではないですが、定員に達する人数の参加をいただきました。今後も地道にはありますが、工夫しながら大人向けの行事も実施していきたいと思っております。

小林委員

本を読む立場からですが、本をつくる側、編集しておられる方や絵を描いておられる方などの話を聞ける機会があれば、読書と繋がると思いますので実現させていただければと思います。

田中館長

出版社の編集サイドとのつながりは、なかなか無いもので、謝礼も少なからず必要となりますから難しいですが、図書館の行事としては興味深いものなので、気にしておきたいと思っています。

小林委員

アンテナを張っておいていただけたらと思います。

福井会長

田原の落語会も何かつながりがありますか。

福井分館長

大切にしているのは、耳で聞いて頭で考えることです、読書とつながっていると思っています。このことは参加いただいた方にもお伝えするようにしています。年配の方が中心ですが、去年は子ども達も3人ほど来ていただいて、玄人好みのタイミングで笑っていて噺家さんもびっくりされていた。もともと所蔵している落語のCDが好評でしたので、生で聞いてもらいたいと思ひまして、調べましたら玄人の師匠に習っている方に安価できていただけるものがありましたので、来ていただくことにいたしました。

本とのつながりということで触れますと、岩出恵子さんという方に来ていただいて、わらべうたと本を結ぶ行事をやっていただいています。最近では、参加の半分ほどが男性の保護者です。いろいろと多様な形でアプローチしていきたいと思っています。

福井会長

小林委員に仰っていただいたように、アンテナを広く張って、きっかけを作っていただければと思います

金城委員

学校図書館支援事務ですが、今は西中学校では週3回で支援員さんに来ていただいています。他校は何回ぐらい勤務しておられますか。

田中館長

西中以外の中学校2校は週4日です。小学校は勤務希望が一定数あるのですが、中学校は小学校に比べると少ないのが現状で、西中学校さんには申し訳ないですが、1日少ない日数になっております。

金城委員

ボランティアをやらせていただいております、現在週2回入らせていただいておりますが、保護者の方、働いている方が多く、人数を集めるのが大変でして、私は楽しくやらせていただいておりますが、雨の時や暑い日もある中で、週2日で来ていただくのは申し訳ないと思っていますので、もう1日増やしていただければ助かります。

藤井委員

時間は放課後ですか

金城委員

支援員さんはお昼休みから夕方まで入られています。ボランティアの場合、もともとはお昼休みは先生と生徒で開室して、放課後の1時間半ほどだけの対応だけでしたが、お昼休みも学校側からお願いされまして、入れる日はお昼休みも入ることになりました。メンバーが4人いれば助かるんですが、いま2から3人で、お昼1人、放課後2人で入らせていただいています。しかし、お昼に入れる方が少なく、月に2から3日は先生にお願いしています。

福井会長

ボランティアさんを集めるのはどのようにされていますか。

金城委員

最初、学校がPTAにお手紙を出してもらいました。最近は、新入生の保護者が年に2から3人ほど応募してくださっていますのと、私のようにOBの保護者が残ってくださる方がいるんですが、転職したりすると活動が難しくなる方も多く、少なくなっていて、メンバー登録は30人くらいありますが、実際入れるのは8から10人くらいになっています。

福井会長

先生方からすると、ボランティアがいらっしゃるのはいかがですか。

川地委員

本当に有難いと思います。職員としてはとりあえず開室しなければいけない、子どもが騒がないように見ていないといけないなどの感覚ですが、支援の方は、こどもが本を手にとりやすいように、興味を引きやすいように、本の配置や掲示物などをいろいろと工夫してくださっていて、図書室が変わったと思いますし、本当に有難いです。田原中学校は4日来ていただいています、これからも継続して来ていただけるとありがたいと思います。

福井会長

他校は4日で西中学校だけが3日というのは、西中学校側としてはやはり不満があるかと思いますが、事務局としてはいかがですか。増やすのは難しいですか。

田中館長

今のところ、中学校は人員確保が難しい状況です。市立図書館、あるいは小学校という希望はありますが、中学校は少ないので、募集は随時行っており人員確保には努めています。しかし、条件に合う方がいらっしゃったら、4日に増やせるようにしたいとは思っています。

藤井委員

予算編成1の3、稼ぐ力を涵養するという説明の中の私有財産の有効活用とはどのようなものですか。一般市民のということですか。

西尾社会教育部長

企業を想定しています。協力いただいて市と一緒に事業をやっていただいたりするものです。たとえば、この11月からスタートするものと、健康の測定機器を公共施設に設置しまして、市民総合センターにも置くことになっていますが、その機器で測定しますとポイントがもらえまして、そのポイントがたまりますと景品が当たるというようなものですが、この事業は健康機器メーカーのタニタさんと本市の健康福祉部が共同で行うものです。先ほど編集者さんのお話を聞いてみたいとの意見がありましたが、その他、家電メーカーさんの方で、新製品が出た時に、企画会議での過程を子どもたちと話をしてもらって、仕事の楽しみを知ってもらうイベントも企画しています。事後にアンケートを書いてもらいますが、市場の声がメーカー側も知れて、双方メリットになるということです。

藤井委員

そういうことですか。質問してみて良かったです。

西尾社会教育部長

自分たちは苦勞してでも、市民の声などが欲しいという出版社があれば、もしかしたらやってくださるところもあるかもしれません。企業とつないでくださるコーディネーターさんがいらっしゃるので、相談してみるものよいかもしれません。

藤井委員

よいですね。双方メリットがあるというのは。

西尾社会教育部長

他に最近の例ですと、赤ちゃん向けの粉ミルクや紙おむつなどを、市民が出生届を出したときや健診の時にももらえるというのもやっています。企業側からすると、知っても

らって、続けて購入してもらえるようになるとメリットがありますので、そのように民間の企業さんとコラボしてもらっています。市側の経費も通常の半分ぐらいで事業ができたりすることもあるということです。

福井分館長

参考ですが、講談社でキャラバン隊というものがありまして、講談社が車で本を持ってくるといイベントを、田原図書館で過去に3回ほど実施しています。最近はこちらの方への巡回が無いようでしたら実施できていませんが、本を自由に見ていただけたり、読み聞かせなどもあって無料で来ていただけるものですので、こちらへ来られるときはまた応募してみたいと思います。

福井会長

他にございますか。無いようでしたら、皆さんからいただいた意見を予算要求の参考にさせていただきますようお願いします。

田中館長

はい、ただ今いただきましたご意見、ブックスタートの選書の留意点や、学校図書館支援の人員確保、また大人向けの行事の工夫など、それぞれ踏まえまして、まとめていきたいと思います。

福井会長

それでは、議題1は終了します。続いて、議題2その他について、事務局から何かありますか。

田中館長

2点ございます。市民総合センター建替えの進捗報告と次回の協議会の開催についてです。まず、次回の協議会の方ですが、今のところ開催時期は未定でございます。この後に報告いたしますセンターの建て替えに関して、次の展開がありましたら、その報告でお集まりいただきたいと思っております。

もう一点のセンター建て替えに関してですが、お配りしているA3二つ折りの資料をご覧ください。前回10月8日開催の協議会において、会長と林委員から総合センター建替えに係るワークショップについて、参加いただいた感想や様子などをお話しいただきました。その際、このワークショップを受けて、計画作成担当業者が今後プランとしてまとめる旨を説明させていただきましたが、このほど、モデルプランが出来てまいりましたので、紹介させていただきます。4案ございます。それが、机上配布しました二

つ折りの4枚つづりセットの資料になります。

4案を順に紹介いたしますが、その前にこの度の施設再編のコンセプト、およびセンター建替えのポイントをあらためて説明させていただきたいと思います。

まず、センター建替えの一番のポイントは、子ども園と複合化されているという点でございます。複合化するに至った経緯ですが、そもそも市内各公共施設が老朽化していることに伴い、施設の再配置をめざして「個別施設計画」を作成することになったわけですが、作成の過程では市民アンケートの実施や市議会での特別委員会の設置、また市民参加のワークショップや市長との意見交換会、市民意見公募などを行うなど、様々な形で市民の意見をいただきました。これらの意見を踏まえて作成しましたのが「個別施設計画」であり、そのコンセプトとしましたのが、少子高齢化や将来的な財政見通しを考え、コンパクトな市域にみあう施設の再配置、つまり単体で更新するのではなく、更新にあたっては、施設全体の集約複合化というわけでございます。

そこで、総合センターと子ども園の複合化の検討に至るわけですが、判断理由としては、まず、各世代の利用者交流により、新たなコミュニティが生まれ、賑わいと魅力あるまちづくりが期待できること、二つめに、災害に強い都市基盤を築き、良好な住環境の形成へつながるまちづくりをめざせる、3つめに、現行制度と国の動きを見据え、有利な財源を得られる見込みがあることでございます。そして、この度のワークショップにおいても複合化の形で提示し、意見をいただいた結果、複合化が可能と考え、その方向で進めることとなった次第でございます。

では、モデルプランの説明に移ります。こども園は、敷地の東側に独立した形で建ちますので、その西側に建つセンターを市民ホール、公民館、図書館の3施設をどのように配置するか、また1階に何を配置するかがポイントになっています。

1枚めは、1階に市民ホールを設置するパターンです。2階、3階に公民館の各部屋があり、図書館は4階に設置になります。ちなみに、現総合センターに相当するものは4階建てになる予定です。

2枚めは、1階に公民館が配置されるパターンです、図書館は3階と4階に配置される形になります。一般スペースと児童スペースで別れる形となっております。

3枚めは、1階に図書館が配置されるパターンです。

4枚めは、1階に図書館と公民館が複合されるパターンで、児童スペースが1階に配置されています。一般スペースは3階への配置となります。

ちなみに、なぜ1階と3階に分かれるか、パターン2のように連続する階に配置されないのかですが、市民ホールに入場する部分がある階は、かなりの広さを使用する造りになりますので、その階は市民ホールのみで占有する形にならざるを得ません。また、市民ホールは高さが必要になりますので、3階分を要する設計になります。現在もそのようになっております。したがって、4階建てにする場合、市民ホールは1から3階、2から4階の2パターンしか配置できず、公民館と図書館の配置は、市民ホールが1から3階の場合は、2から4階分を、市民ホールが2から4階の場合は、1階と3階と4階という形になってしまうということです。

また、ワークショップでよくでていたキーワードのカフェやワークスペースは、図書館利用者に限らず使われるであろうとの判断で、業者の案では共有部分に設置されております。また、自習室も同じ判断で、図書館とは別に設置される形になっています。

これらの施設配置、設備等の詳細は、現段階ではあくまで、「こんな感じでできます」という文字通りモデルプランですので、今後、基本計画を策定していくなか、関係各課が集まる部会などで詳細を検討をしていくものと考えております。

ちなみに、ワークショップの4回めに1階に設置する施設の投票が行われましたが、投票数13人で、市民ホールは3人、公民館5人、図書館1人、公民館・図書館の複合が4人となりました。

なお、公民館、市民ホール、図書館は、それぞれ、現状の広さを概ねキープする形となっております。また、建替え完成は令和13年度中を予定しているとのことでございます。以上、モデルプランの紹介です。なにか、感想や意見などありましたらお願いいたします。

福井会長

今、事務局から、その他について説明がありましたが、何か、ご質問などありますか。

藤井委員

カフェがありますね

田中館長

カフェはワークショップでも声が多かったです

会長

階が分かっていると職員さんが大変ですね

藤井委員

4階となると子どもが大変ですね。

田中館長

図書館が分かれるとしても上下くらいであれば、何とか対応できるかと思いますが、1階とばして分かれると大変です。

川地委員

図書館の将来を考えたらモデルプラン3の一択かと思います。4階に配置された場合、図書館に目的があって来るという市民だけになるように思います。モデルプラン3だと3階、4階にあるのが会議室や音楽室や視聴覚室などで、目的があって来る人向けの施設ですね。図書館は、目的なく気軽に立ち寄る人がいるはずなので1階が良いと思います。前回の資料を見ると12歳ぐらいまでは利用率が高く、その上の年齢層で減少して、高齢になるとまた増えるという傾向になっています。今、利用者を増やしておかないと図書館の存亡、存在意義にかかわると思っています。なんでもスマホがあれば調べられる時代に、図書館に目的を持って来る人がどの程度いるのかということを考えると、ショールーム的に、図書館があるから寄ってみようかという人を増やすことをしないと存在意義が危うくなると思います。

福井会長

ワークショップでもそういう意見は出ていました。

川地委員

モデルプラン4にすると図書館は減ってしまうのではないかと考えてしまいます。小さい子どもがいる保護者の方で4階まで行く方がどの程度いるのかということです。気軽に寄れるようにしておかないと、図書館の将来像がどうかと思います。

1階に児童書のエリアがあれば、となりにこども園があつて、図書館へ行ってみようかとなつて、子どもがたくさん来て、そこで読み聞かせなどをしてもらえれば、本を読むように、親しめるようになる。その子たちの年齢が上がってきたときに、一般書にはどんな本があるんだろうとなつたときに、同じフロアにある必要があると思います。階が分かれるのは良くないと思います。子どもの動線を考えると、気軽に立ち寄りやすいとなっているモデルプラン3が図書館が一番生き残りやすいと思います。

モデルプラン4は、子どもエリアと大人エリアがつながってはいますが、図書館が隔離されてしまっているように見えます。モデルプラン2は、図書館が分かれていて、児

童書コーナーが4階で、これも隔離されているように見える。目的を持った人が利用する施設は1階でなくてもよいと思いますが、1階は図書館のように気軽に立ち寄れる施設にしないとメリットがないと思います。

他で強いて言えば客席のあるホールですが、こちらも目的持ってくる施設なので優先順位は図書館の方が上かと思います。

将来、図書館が市の文化の発信基地として栄えていく必要があると思うので、我々としてはモデルプラン3しかないと思いました。

小林委員

私も1階であること、ワンフロアであることが大事だと思います。フロアが分かると職員が大変ですので、サービスも行き届かない、また目も行き届かないのでは。子ども連れの人を呼び込む、自習室を作って中高生を呼び込もうとしたら、人の流れが多くなるので、目が行き届くようにしないと管理しきれなくなると思う。そういう意味では、ワンフロアで1階という選択肢しかないかと思います。

自習室は個室ですか。

田中館長

自習室との文字どおり室ですので、複数名が入れる部屋になっていると思います。

小林委員

一つの部屋で静かに自習しましょうというのと、せっかく来ているんだから、合間に図書館で本を手にとってもらいましょうということで、閲覧室の並びにオープンスペースで自習コーナーを作るというのもあって良いかと思う。

福井会長

グループ学習というのも声が出ておりましたね。何人かが寄って話ができるというスペースもあって良いかと思いますが。

田中館長

図書館のフロアの中に集会室というのをに入れてもらっています。現在は、この場所ですので、図書館の開架スペースとは隔離された配置になっていますが、是非開架と隣接するか中に入るかという配置にしてもらいたいとお願いしました。そうしますと、目が行き届きますので、集会室を行事や会議で使っていない時は、自習スペースあるいはグループワーク室のような形で活用することができるのではないかと考えております。

なお、今いただきましたプラン3が良いのではないかというご意見についてですが、プラン作成業者さんにおかれましても、にぎわいを重視するなら図書館が1階にあるのが良いのではというコメントをいただいております。市民ホールが1階にあるのが良いという意見に関しては、ワークショップで出ておりましたのは、災害時にホールから大人数を避難させるということを想定すると1階はホールが良いのではないかという声でした。

福井会長

他には、見える化するというのが皆さんの意見でしたね。

金城委員

私もプラン3が良いと思います。今は1階がホールなので全部壁ですが、1階が図書館だと窓があって、外から中が見えるので皆さん入って来やすいのではないかと思います。

福井会長

中が見えると立ち寄りやすいですね。そういう気持ちが起こりやすいような設計が必要ではないかという声もワークショップで出ておりましたね。

金城委員

今は、中に何があるか外からは全くわかりませんね。

福井会長

他にございませんか。無いようでしたら、これをもちまして、令和7年度第4回図書館協議会を閉会いたします。

上記議事録の顛末を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和 8年 3月 6日

四條畷市立図書館協議会会長 福井 多恵子

同 委 員 藤井 啓子